



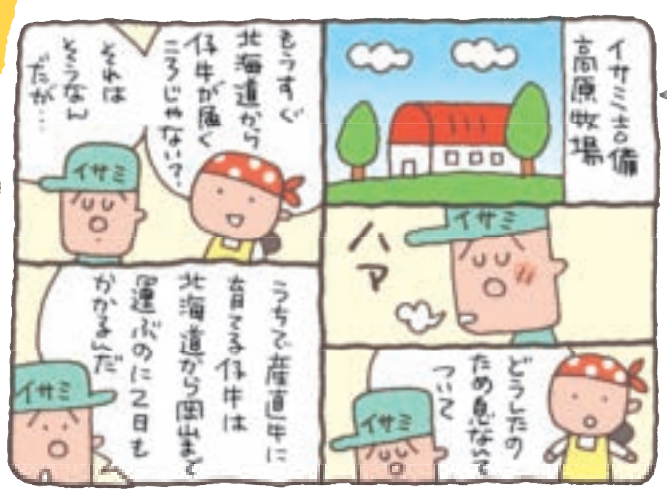
# 生協牛乳と産直肉



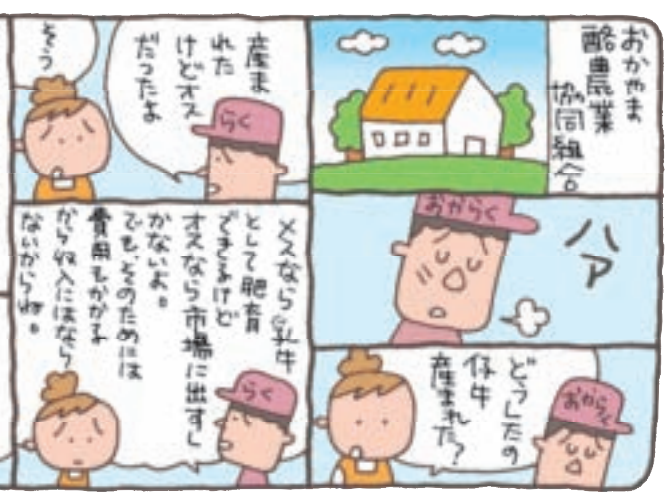
を結ぶ

## 新しい産直ネットワークがスタート!

4月9日(木)、産直牛肉の生産にかかわる覚書(産直牛一貫肥育調印式)を、おかやま酪農協、イサミ吉備高原牧場、大阪よどがわ市民生協、おおさかパルコプの4者で調印しました。



産直牛肉をつくらせている



生協牛乳を生産している

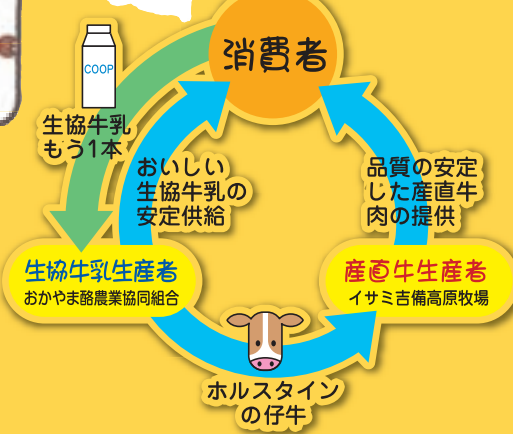


こうして生協牛乳産直牛肉を結ぶ新しい産直ネットワークが誕生しました。

イサミさんでは安全な飼料で育った生協牛乳の母牛から生まれたオスの仔牛をイサミ吉備牧場で一貫飼育し、産直牛を組合員の皆様に提供できるようになります。

おかやま酪農協同組合さんでは、費用の軽減とホルスタイン種の後継牛を作るという意欲につながる事が期待でき、よりよい商品が生まれていきます。

両者のおかれてる問題を解決するために、今回酪農と畜産が結びつく取り組みをコーディネートしたのが、おおさかパルコプとよどがわ生協です。



次号につづく No.286 (7月13日発行)

よどがわ生協「よどがわさん」 おおさかパルコプ「パル子」



私たち生協の組合員は生協牛乳を飲み、産直牛肉を食べる。この「循環消費」に参加して酪・畜・循環産直を応援していきたいですね!

おかやま酪農協同組合 生産者 檜尾(ひのきお)さん

本当に日本の酪農家の置かれている現状はさびしいです。しかし今回のように大阪から岡山の私たちのところへ遠いところ訪問して頂く事で、僕たちが作った牛乳を待っていて頂けると思いながら、牛を育てています。経営は大変ですが今後も、みなさんの顔を思い浮かべて、頑張っていきます。

(株)イサミ 代表取締役 北川 介通社長

酪農と畜産は密接につながっています。酪農家の皆さんが抱える問題を解決しないと産直牛も維持できなくなります。今回の取組みは酪農と畜産の生産者が連携生産し、組合員の皆さんが循環消費することで生協牛乳と産直牛を維持しようとするものです。

そして生産現場の現実を「顔の見える距離」でお伝えすることで、「産地と組合員の距離を縮め、お互いを想いやるような関係づくり」の一助になるものと信じています。

1万人の組合員さんが生協牛乳を毎月1本だけ多く飲めば産直牛を12頭増やすことができます。

調印式に参加した《よどがわ》理事の声

調印式という歴史的な場面に参加しとても感動しました。しかしここからスタートで、この循環産直が成り立っていく為に、私たち生協の参加が不可欠なんだとあらためて感じました。この感動と大切に育てられた安心・安全な一押し産直牛乳と産直牛をもっと伝える取り組みをみんなで考えていきたいと思いました。

★3面のインフォメーション欄にイサミ吉備高原ファームへのツアー募集あります!

### お知らせ

これまでみなさまにお届けしていたよどがわが



## yodogawa

になりました。

《よどがわ》の取り組みを分かりやすくお伝えし、組合員さん同士で交流できる紙面をめざし、リニューアルしました。新しい機関紙へのご感想・ご意見を3面「おたより募集」欄でお寄せ下さい。



ワタシよどがわさんもどんどん登場します!